

## わたしのお母さん

山本 真鈴

わたしのお母さんは、よくわらう。

それを、お母さんに言う。「そう。」とふしぎがるけど本当だ。楽しい事やうれい事があるとわらうのは分かる。けれど、わたしとけんかをしているさい中でもわらう事がある。

わたしは、その事によ計におこった事がある。真けんに話を聞いてくれないと思つたからだ。でもお母さんの答えは、全くちがつた。

「まりちゃんが、大きくなつてしつかりしてきたなあとかんじてうれしくてえ顔になつたのよ。」と教えてくれた。わたしは、ふ思ぎな気持ちになつた。なぜ、けんかをわたしのせい長と重ねてうれしくなるのかなあと。

わたしには、ふた子の弟がいる。小さな時の事は、あまりおぼえてないけれどわたしたちは、とてもとても小さい赤ちゃんで生まれる前も生まれてからもたくさんの人たちにお世話になつて大きくなつた事をよく教えてもらつていた。

ふつうの赤ちゃんにくらべてせい長もゆつくりで心配ばかり

かけていたのかなとかんじていた。それでお母さんに、「赤ちゃんがふた子で大へんだったよね。」と聞いた事がある。お母さんは、

「大へんな事も全部わすれるぐらいかわいかつたよ。」と教えてくれた。わたしは、とてもうれしく思つた。

考えてみると、ようち園の入学式やそつ園式、小学校の発表会や運動会、手紙を書いてわたした時もうれしそうにしながら泣いていた。でも、わたしが反こうしたり、けんかしたりした時はわらつてゐる。

そんなお母さんがわたしは、大好きだ。

今日もお母さんは、

「まりちゃんやさいと(弟)のそんざいがお母さんを強くしてくれているのよ。ありがとう。」と言つてくれる。

わたしは、少しはずかしかつたけれど自せんとえ顔になつた。またこれからも、ありがとうの気持ちをとくさんつたえてお母さんにえ顔になつてもらいたいと思つた。